



おおくす

校長 藤本 尚

《4年生が総合学習で「長太の大楠」を学びました》



2月2日に大楠保存会の杉野会長や樹木医の中村先生をお招きし、大楠を守る大切さや意義について学びました。「昨年9月に大楠に雷が落ちましたが、電流が大楠の中を少しだけ通り、大半はずぶぬれになった樹皮側を通ったため大楠の命

にかかわることになりませんでした。不幸中の幸いでした。大楠はいくつもの危機を乗り越えてきました。正しく学んで、理解して、大楠とともに過ごしていけるといいですね。」という言葉が心に残りました。(2月16日(火)中日新聞にこの学習が紹介されました。)

《6年生を送る会を開催し、下級生が日ごろの感謝を伝えました》

2月24日(水)に、6年生を送る会を開催しました。校歌から始まり、密を避けて入れ替わりながら1~5年生、先生の心のこもった発表がありました。また各学年が趣向を凝らした掲示物も飾っていました。その後6年生からの歌、そして、伝統を受け継ぐ式と続けました。



1年「ちこちゃんに怒られるかな」



2年「えんとつ町のプペル」



3年「新しい世界でも」



4年「また会う日までさようなら」



先生からの贈り物



6年「また会える日まで」



6年退場(5年花道担当)

5年生が送る会の担当として精一杯頑張り、運営して、立派な会となりました。来年度、最高学年としての活躍を期待しています。

《大木中学校の先生から出前授業をしていただきました：2月25日(木)》

(6年2組 社会科：米田先生)

公民の授業をしていただきました



(6年1組 英語科：坂先生)

あいさつやクイズ、ビンゴをほとんど英語でしていただきました。



【3月25日(木) 修了式後の下校時刻の訂正について】

1~4年生の下校時刻は10時50分になります。5年生は来年度に向けての机椅子移動作業をした後、11時30分の下校になります。先の案内を訂正します。ご了承ください。

《今後の予定について》 諸事情により変更になることがあります。

(令和3年度の主な予定)

【3・4月の予定】

【1学期】 5月15日(土) 土曜授業

5月中旬～ 家庭訪問

7月16日(金) 給食終了

16・19日(金・月) あゆみ渡し

20日(火) 終業式

【2学期】 9月1日(水) 始業式

3日(木) 給食開始

10月2日(土) 運動会 4日(月) 代休

8日(金) キッズウィーク休業日

12月21日(火) 給食修了

22日(水) あゆみ渡し

23日(木) 終業式

【3学期】 1月11日(火) 始業式 13日(木)

給食開始 3月23日(水) 給食終了

25日(金) 修了式

3/1(月)	7限 委員会活動最終
10(水)	5限地区別児童会 みまもりたい一斉下校(14:30)
11(木)	大木中校区登校指導
12(金)	5・6限 奉仕作業(6年)
15(月)	4限 児童会役員選挙
16(火)	大そうじ
19(金)	卒業証書授与式 9:30～
20(土)	春分の日
23(火)	給食終了(1～5年)
25(木)	修了式・離任式 あゆみ渡し
4/6(火)	1学期始業式
7(水)	入学式
8(木)	給食開始(2～6年)
9(金)	給食開始(1年)
23(金)	授業参観・PTA総会

《鈴鹿市がシトラスリボンプロジェクトに参加しています》

コロナ禍で生まれた差別や偏見を耳にした愛媛県の有志がつくったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。

リボンの3つの輪は「地域」「家庭」「職場・学校」を表します。

コロナ禍の中で、これまで自分が差別を受けるなど考えもしなかった人々すら、差別被害の不安を抱かせる「誰もがマイノリティ」になりえる状況が、これまでの差別が未解決であったが故につくられています。

この状況は、これまでマイノリティとさせられてきた人々が置かれてきた状況や心理的負担等を多くの人たちが「共感」できる状況でもあります。

自身や家族が安心して生活していける社会、職場、学校とするために、「マイノリティ」が連帯し、差別の解決に向け、これまで以上に多くの人々の力添えによって、あらゆる差別の解消につなげる「チャンス」を逃さないようにしたいものです。

そのためには、次の5つについて、できることをしっかり進めたいと考えています。

- ① 感染症など「知らないこと」に課題意識を持ち、今よりももう一歩、差別問題や人権問題について正しく学び、つかむ。
- ② 人権問題を日常的な話題にし、感心やモチベーションを維持し続ける。
- ③ 感染不安や差別被害への不安などを出し合い、共感しあい、最善の方法を議論・検討し合う。
- ④ 誰が感染しても差別しないこと、誰が感染しても安心して戻ってこられる地域(職場や学校等)になることを確かめ合う。
- ⑤ 「誰が陽性になっても、早く元気になって戻ってこられるように」「元気に戻ってこられてよかった」という関係性とコミュニティづくりをつくっていく。

